

コリント人への手紙第二 第5章 17節

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

このみことばから幾度かの言葉を綴っている。自分に失望する者への望みとして聞いてきたむきがある。自分に絶望する者に射す一筋のひかりとして語られていると主張したむきがある。周りの悲慘に飲み込まれそうな者に与えられるひかりと願い語ったこともある。いずれも、嘘偽りのない真実だからこそ綴った。

そのうえで、さらに異なった角度から聞く必要があることに気づかされた。それは、そもそもこのみことばを聞く気もしない者もいる現実である。無視する者がほとんどである。一体なんのことかとチンプンカンプンな者もいる現実がある。さらに言えば、このみことばに触れたこともない者がほとんどである過酷な現実がある。

だから、このみことばを封印することが賢明であるか、と言えは真逆である。だからこそ、語り続ける必要がある。たとえ、どのような扱いを受けようとも語る必要がある。なぜなら、神が語るからである。神の自由な意志で語っているからである。人の求めや世の事情で語られた言葉ではないからである。ただ、神が神であるから語っておられる。

2025年4月2日